

РУССКО-ЯПОНСКИЙ⁸⁹
СЛОВАРЬ

С. ЯСУГИ

РУССКО-ЯПОНСКИЙ СЛОВАРЬ

СОСТАВИЛ
С. ЯСУГИ

岩波ロシヤ語辞典

増訂版

八杉貞利 著

ИВАНАМИ-СЁТЭН

岩波 ロシヤ 語辞典 増訂版

1960年4月26日 第1刷発行 ©
1965年10月20日 第4刷増訂発行 定価 2500円
1984年12月10日 第22刷発行

著 者 や 八 ^{すぎ}杉 ^{きた}貞 ^{とし}利

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

発 行 所 株式会社 岩 波 書 店

電話 (03) 265-4111
振替 東京 6-26240

印刷：凸版印刷 製本：宮内製本

Printed in Japan 落丁本・乱丁本はお取替いたします

序

『岩波版露和辞典』が世に出たのは昭和 10 年 (1935) で、幸にロシア語学習者諸賢の愛用をえ約四半世紀の生命を持続して今日に及び、その改訂を必要とするに至った。しかし古いものをつぎはぎするのは労多くして功少なきを思い、あらたに稿を起してここに本辞典は成ったのである。

以前のロシアはその抱持した大ロシア主義にもかかわらず、現代語の整理には十分の注意が払われなかったようである。それがソヴェート時代となって、さきには通称ウシャコフ辞典 (4 巻) の出版があり、近くはオージェゴフの辞典、つづいて科学アカデミヤ言語研究所編纂のロシア語辞典 (4 巻、ただし第 3 巻以下は本書校正の際にはまだ公けにされなかった)、および正字法辞典が刊行されて、ここに主要文献中に残存する廃語を含めた現代ロシア標準語の語彙は、ほぼ完成されたと見るべきであろう。したがって本邦におけるロシア語辞典の編者に課せられた任務は、与えられた語彙とその解釈とを日本の学習者のために整理し按排することにあつた。この意味において、本辞典の編纂に際して主たる注意は、語の意義の分類、それと用例との調和、見出語の整理などに向けられたのである。本辞典中の用例などが前記諸辞典に負うところ多きは言をまたない。

私は辞書に関し日頃次のような考え方を持っている、すなわち辞書は、普通考えられているように、単に《ひくべきため》のものではなくてまた《読むべきため》のものである、少なくともいわゆる常用語 (術語に對し) に関してはかくあるべきであり、これによって辞書はまた、ロシア語教育における意義論に少なからぬ寄与をなし得るものと思うのである。用例の選択その他において、本辞典の使用者諸賢が、編者の微衷に一顧を与えらるることを得ば幸である。

本辞典編纂の途上において、編者は多少技術上の困難に遭遇したのであるが、しかし歴史の大いなる歩みは日に進む日ソ関係の緊密化とともに、遠からぬ将来においてこれら障害のとり除かるべきことを期待したい。

学術技芸の用語に関しては、専門家諸賢から多くの貴重なご助言を頂いたのであるが、なお大方各位の叱正をお願いしてやまない。

本辞典の編纂に際しては、東京外国語大学助教授和久利誓一、早稲田大学助教授小川利治の両君その他の方々から頂いたご援助、岩波書店辞典部の方々のご協力に對し深甚の謝意を表させて頂きたい。

1960 年 4 月

八 杉 貞 利

増訂版の序

本辞典の刊行後 5 年半の間に、文化の急速な発展にともなってロシア語にも多数の新語を生じた。他方この期間にソ連邦において、オージェゴフの辞典の増訂第 4 版、科学アカデミー-ロシア語研究所編纂ロシア語辞典の第 3, 4 巻、ソ連邦百科辞典出版所刊行の百科辞典など、ロシア語辞典の編纂上重要な諸資料が公けにされた。今回、これらの資料を慎重に検討し、新たに約 5,000 語を巻末に増補することにした。なお既に収載されている語についても、語義・用例その他について多くの補訂を行った。さらにこれを機会に、巻頭のソ連邦行政区画地図および巻末のソ連邦構成共和国一覧を、最新の資料に基いて修正した。

増訂にあたっては、東京外国語大学教授和久利誓一氏に多大の労をわずらわした。記して厚く感謝の意を表する。

1965 年 9 月

八 杉 貞 利

ロ シ ヤ 字 母

大文字	小文字	名 称	発 音
А <i>А</i>	а <i>а</i>	а	[a]
Б <i>Б</i>	б <i>б</i>	бэ	[b]
В <i>В</i>	в <i>в</i>	вэ	[v]
Г <i>Г</i>	г <i>г</i>	гэ	[g]
Д <i>Д</i>	д <i>д</i>	дэ	[d]
Е <i>Е</i>	е <i>е</i>	е (йэ)	[je]
Ё <i>Ё</i>	ё <i>ё</i>	ё (йо)	[jo]
Ж <i>Ж</i>	ж <i>ж</i>	жэ	[ʒ]
З <i>З</i>	з <i>з</i>	зэ	[z]
И <i>И</i>	и <i>и</i>	и	[i]
Й <i>Й</i>	й <i>й</i>	и краткое	[j]
К <i>К</i>	к <i>к</i>	ка	[k]
Л <i>Л</i>	л <i>л</i>	эль	[ɣ]
М <i>М</i>	м <i>м</i>	эм	[m]
Н <i>Н</i>	н <i>н</i>	эн	[n]
О <i>О</i>	о <i>о</i>	о	[o]
П <i>П</i>	п <i>п</i>	пэ	[p]
Р <i>Р</i>	р <i>р</i>	эр	[r]
С <i>С</i>	с <i>с</i>	эс	[s]
Т <i>Т</i>	т <i>т</i>	тэ	[t]
У <i>У</i>	у <i>у</i>	у	[u]
Ф <i>Ф</i>	ф <i>ф</i>	эф	[f]
Х <i>Х</i>	х <i>х</i>	ха	[x]
Ц <i>Ц</i>	ц <i>ц</i>	цэ	[ts]
Ч <i>Ч</i>	ч <i>ч</i>	че	[tʃʹ]
Ш <i>Ш</i>	ш <i>ш</i>	ша	[ʃ]
Щ <i>Щ</i>	щ <i>щ</i>	ща	[ʃʹtʃʹ]
	ъ <i>ъ</i>	ер	(硬音符)
	ы <i>ы</i>	еры́	[ɨ]
	ь <i>ь</i>	ерь	[ʹ] (軟音符)
Э <i>Э</i>	э <i>э</i>	э	[ɛ]
Ю <i>Ю</i>	ю <i>ю</i>	ю (йу)	[ju]
Я <i>Я</i>	я <i>я</i>	я (йа)	[ja]

凡 例

I. 記 号

A, B, C... 名詞形容詞語尾変化表(Ⅷ, Ⅸ, X 頁)の変化式分類記号に照応する。

①, ②, ③... 語義の分類に用いる。

①, ②, ③... 上記の分類番号を再記する場合に用いる。

例: **гадю́ка** *M* [女] ①... ②... ~**дю́чий** *Y* [物主形] ①。

①, ②, ③... 語義分類の ①, ②, ③... に照応する用例の分類に用いる。

† 廃語またはそれに近い語。正字法字典(ソ連科学アカデミヤ編, 1956 年刊)に採用されなかった旧綴字にもこの記号をつけた場合がある。

˙ ˙ 力点。一語に二カ所力点記号がついている語は、そのどちらに力点を置いてもよいことを示す。(ただし複合語で *ë* の力点記号が単に *e* 字の読み方を示す如き特殊の場合を除く)。

= 同語異綴字または同義語。

→ ...を見よ。

~ ~ 反復記号。派生語、用例などを掲げる場合、見出し語を全部または一部反復するのをさけるためこの記号で代替する。

◇ 本欄の Ⅶ 6) 参照。

II. 発音および綴字(正字法)

1) 発音は少数の極めて特殊な場合だけ注記した。

例: **трясти́**...; 過 **тряс** (発音 **тряс** または **трёс**)。

2) 従来二様の綴字が用いられていた語は上記正字法辞典によるを原則とした。しかし従来用い慣れた綴字法も便宜上ある程度これを収録した。それは多く重複子音の場合、および **ж, ч, ш, щ, ц** の後の **о, е** の場合である。

例: **аббревиату́ра** (正字法)

аббревиату́ра = **аббревиату́ра**。

галере́я (正字法)

галлере́я = **галере́я**。

танцевáть (正字法)

танцовáть = **танцевáть**。

чёрт (正字法)

чорт = **чёрт**

III. 名詞変化の表示

1) 当該名詞変化の通則は見出語のあとに付する *A, B, C...* の記号により名詞語尾変化表(Ⅷ, Ⅸ 頁)を参照して知られたい。その際力点の移動、綴字の変化ある場合には、名詞数格排列の常用順序([単] 生, 与... [複] 主, 生, 与...)により、移動または変化の起る最初のもの(時にはその次まで)を示し他は省略する。移動または変化が語尾中のある一個(これに等しいものを含む)についてのみ行われる場合は特にそれを表示する。

例: **сто́л**, *á A* [男] (単数生格以下力点語尾)

торго́вец, *вца D* [男] (単数生格以下母音 *e* 脱落)

страна́, 複 *áны L* [女] (複数主格以下力点語幹)

бровь, 複 *и, ёй R* [女] (複数生格以下力点語尾, ただし主格に等しい対格は別)

река́, 単対 *ре́ку*, 複 *ре́ки M* [女] (単数は対格のみが, 複数は主格以下すべてが力点語幹)

коле́нка, 複生 *нок M* [女] (複数生格において母音 *о* が入る)

голо́ва, 単対 *го́лову*, 複 *го́ловы, го́лов, голо́вам L* [女] (単数は対格のみ力点語幹, 複数は与格以下力点語尾)

特殊変化の表示法も同様である。

例: **крыло́**, 複 **кры́лья**, **льв** *G* [中] (単数は力点語尾, 複数は力点語幹で与格以下 **льям**, **ля**, **ля́ми**, **ля́х**)

друг, 複 **друзья́**, **зе́й**, **зья́м** *B* [男] (単数は力点語幹, 複数は力点語尾で対格以下 **зе́й**, **зья́ми**, **зья́х**)

2) 同一格が二様の語尾を有する場合にはダッシュその他の方法で示す。

例: **пол**⁽¹⁾, **а-у**, 単前 **о по́ле**, **на-в полу́** (単数生格は **по́ла** または **по́лу**, 単数前置格は一般には **по́ле** であるが, 前置詞 **на**, **в** の後では **полу́** となる)

IV. 形容詞変化の表示

1) 当該形容詞変化の通則は見出語のあとに付する *T* から *Z* までの記号により, 形容詞語尾変化表 (*X* 頁) を参照して知られたい。

2) 短語尾 ([単] 男・女・中, [複]) の力点で省略された部分は表示した最後のものに準ずる。

例: **краси́вый**, **си́в**, **а** (**о**, **ы** は省略)

жи́дкий, **док**, **дка́**, **дко** (**дки** は省略)

3) 比較級・最上級語尾で **-ее** (**-ей**), **-ейший** による規則的のものは表示を略した場合が多い。

V. 動詞語尾変化の表示

1) 動詞の変化は通則として次の順序で示す。

見出語 (不定法)——直説法現在 (完了体未来) 単数一人称——同上 二人称——(必要の場合に限り) 複数三人称——命令法 (二人称単数; ただし規則的の場合は多く省略)——被形過 (その存在する場合; 太字イタリック; 特に被形過なることを付記しない)。

2) 第一式正則変化をなす動詞の直説法語尾は掲げない。この場合第一式正則変化というのは次の三個の場合である (～ся を含む)。

-ать, **аю**, **аешь** (例: **чита́ть**, **чи́тывать**, **хло́пать**)

-ять, **яю**, **яешь** (例: **гуля́ть**, **утомля́ть**)

-еть, **ею**, **еешь** (例: **уме́ть**, **жале́ть**)

3) 直説法語尾には, ある人称を欠く場合, またはある人称のみを用いる場合がある。その表示法は例えば:

завязи́ть, 一人称用いぬ, **зи́шь** (一人称を欠く場合)

мерца́ть, **ает** (三人称のみを用いる場合)

4) 直説法過去, 能形現, 能形過, 被形現および副動詞は, 特殊 (不規則) 変化および特に必要ある場合にのみ表示する。

5) 変化語尾の力点に関しては名詞形容詞の場合と同じく, 動詞語尾排列の常用順序 (単数一, 二, 三人称, 複数一, 二, 三人称) により, 表示を省略した部分は表示された部分中最後のものに準ずる。

例: **учи́ть**, **учу́**, **у́чишь** (**у́чит**, **у́чим**, **у́чите**, **у́чат** は省略)

утомле́нный, **ле́н**, **ле́на́** (**ле́но́**, **ле́ны** は省略)

гна́ть, **гна́л**, **ла́**, **ло** (**ли** は省略)

VI. 動詞補語の表示

動詞をその補語に関し三類に分ち次の方法によって表示する。

1) 対格の補語をとり得る動詞——〔他〕で表示する。

例: **чита́ть** ……〔他〕(補語無しにも用いられ得る)

2) 名詞・代名詞の補語をとり得ぬ動詞——〔自〕で表示する。

例: **холоде́ть** ……〔自〕

3) 対格以外の斜格 (生格・与格・造格) を補語とし得る動詞——この種の動詞の補語表示は次の三方法による。(i) **кого́-чего́** (生格). (ii) **кому́-чему́** (与格). (iii) **кем-чем** (造格).

例: **избегать**……кого-чего
помогать……кому
управлять……кем-чем

- 4) 二重補語をとる動詞の場合 (例えば対格と生格または対格と与格とを合せとる場合) は次例の如く示す。

例: **лишить**……〔他〕кого-что кого-чего
учить……〔他〕кого чем

- 5) 選択補語の場合 (例えば対格と造格のいずれかをとる場合) は次例の如く表示する。

例: **бросать**〔他〕(または чем)

- 6) 語義による ①, ②, ③…の分類中のある項に限り爾余とは異った補語格が要求される場合には, その項に表示する。例えば一般的には〔他〕である動詞が, 某項に限り造格補語を取る如き場合である。

例: **двигать**〔不完〕〔他〕①……. ④ чем…….

VII. その他

- 1) 形容詞でそのまま名詞の意義をとるものは, 一部は独立の見出語にとり (例: **столо́вая** 食堂), 他は当該形容詞語義分類 (①, ②…) 中の一とした。時に用例中において示した場合もある。この種の名詞的形容詞は〔男名〕〔女名〕〔複名〕または単に〔名〕 (男女を含む) として示す。
- 2) 形容詞から派生し **-ость**, **-есть** を接尾辞とする抽象名詞, および動詞から派生して **-ние**, **-тие** を接尾辞とする抽象名詞で語義の明瞭なものは, その訳語を (あまり重要でないものは語そのものを) 省略したことが多い。
- 3) 名詞から派生した形容詞で語順が名詞の近くにあるものは多く当該名詞の項に併記した。
- 4) 本辞典には始発完了体 (略号〔始完〕) なる用語を用いた。これは動作の始めを示す場合, すなわち《…し始める》というべき所を略した便宜的な用語であって, 接頭辞 **за-** を有する動詞に限り使用した。したがってこれは動詞の独立な範疇を成すものではない。

例: **задрема́ть**〔始完〕→**дрема́ть**. (**нача́ть дрема́ть** の意)

- 5) 説明および用例中に用いた **кто**, **что** ならびにその変化形は, **кто-нибудь**, **что-нибудь** ならびにその変化形であって, **-нибудь** を省略したものである。
- 6) 用例中 ◇ で区切ってある後の部分は, いわゆる慣用句および多少とも特殊な表現を集めたものである。しかし慣用句はこれに限られるのではなく, ◇ より前にも適宜置かれてあり, それらは主に太字イタリックで示されている。また慣用表現の多い場合には用例の大部分を ◇ 以下に集めた場合もある。それぞれの場合に応じて適宜の方法を取った。
- 7) 『諺』は通則として語義の分類に関係なく用例の末尾に収めた。

略 語 表

I. 文法用略語

1) 名詞, 代名詞, 形容詞, 数詞	前 前置格	副過 副動詞過去形
〔名〕 名詞	〔不変〕 語尾変化しない	3) その他の品詞
〔男〕 男性名詞, 男性	〔短尾〕 形容詞短語尾形	〔副〕 副詞
〔女〕 女性名詞, 女性	〔長尾〕 形容詞長語尾形	〔前置〕 前置詞
〔中〕 中性名詞, 中性	比 比較級	〔接〕 接統詞
〔総〕 総性名詞	最上 最上級	〔間〕 間投詞
〔男名〕 (形容詞の形態を 持つ) 男性名詞	2) 動 詞	〔接頭〕 接頭辞
〔女名〕 (同上) 女性名詞	〔他〕 他動詞	〔接尾〕 接尾辞
〔中名〕 (同上) 中性名詞	〔自〕 自動詞	
〔複名〕 (同上) 複数名詞	〔無人動〕 無人称動詞	4) 用法上の略語
〔集合〕 集合名詞	〔完〕 完了体	〔口〕 口語
〔抽名〕 抽象名詞	〔不完〕 不完了体	〔俗〕 俗語
〔代〕 代名詞	〔一回〕 一回体	〔方〕 方言
〔人代〕 人称代名詞	〔多回〕 多回体	〔粗〕 粗野な表現
〔個数〕 個数詞	〔始完〕 始発完了体 (3a- の部に限り使用)	〔文〕 文章用語
〔序数〕 序数詞	〔定〕 定動詞	〔公〕 公用語
〔集合数〕 集合数詞	〔不定〕 不定動詞	〔雅〕 高尚な表現
〔形〕 形容詞	過 過去形	〔詩〕 詩語
〔物主形〕 物主形容詞	命 命令法	〔稀〕 稀用語
〔単〕 単数	被働 被働形	〔古〕 古語
〔複〕 複数	能形現 能働形動詞現在形	〔史〕 歴史に関係あるまたは 史的となった表現
主 主格	能形過 能働形動詞過去形	〔革前〕 革命以前の用語, 事項
生 生格	被形現 被働形動詞現在形	〔民謡〕 民間伝承叙事詩な どの用語
与 与格	被形過 被働形動詞過去形	
対 対格	副現 副動詞現在形	
造 造格		

II. 一般用略語

ア〔医〕 医学, 薬剤	〔建〕 建築	タ〔虫〕 昆虫
〔印〕 印刷	〔語〕 語学, 言語学	〔鳥〕 鳥類
〔音〕 音楽	〔工〕 工学	〔哲〕 哲学
カ〔化〕 化学	〔鉱〕 鉱物・岩石, 鉱山	〔鉄〕 鉄道
〔画〕 絵画	〔古生〕 古生物	〔天〕 天文
〔貝〕 貝類	サ〔詩〕 詩学, 韻律学	〔電〕 電気
〔海〕 海軍	〔狩〕 狩猟	〔動〕 動物
〔解〕 解剖	〔宗〕 宗教	ナ〔農〕 農業
〔機〕 機械	〔修〕 修辞	ハ〔美〕 美術
〔ギ神話〕 ギリシャ神話	〔植〕 植物	〔法〕 法律
〔魚〕 魚類	〔数〕 数学	ラ〔理〕 物理
〔軍〕 陸軍, 軍事	〔政〕 政治	〔論〕 論理
〔経〕 経済	〔聖〕 聖書	
〔劇〕 演劇	〔船〕 船舶, 海事	

その他自明のものはここに掲げない。

語尾變化表

I. 名詞語尾變化表

		単数				複数							
		主	生	与	対	造	前	主	生	与	対	造	前
A	—	-а	-у	主 ま た は 生 に 同 じ		-ом	-е	-ы	-ов	-ам		-ами	-ах
B	г к х	-а	-у			-ом	-е	-и	-ов	-ам	主 ま	-ами	-ах
C	ж ч ш щ	-а	-у			-ем (-óm)	е	-и	-ей	-ам	た は	-ами	-ах
D	ц	-а	-у			-ем (-óm)	-е	-ы	-ев (-óв)	-ам	生 に	-ами	-ах
E	-й	-я	-ю			-ем	-е ¹	-и	-ев (-ёв)	-ям	同 じ	-ями	-ях
F	-ь	-я	-ю			-ем (-ём)	-е	-и	-ей	-ям		-ями	-ях
G	-о	-а	-у	主 に 同 じ		-ом	-е	-а	—	-ам	主 ³	-ами	-ах
H	-е	-я	-ю			-ем	-е	-я	-ей	-ям	に	-ями	-ях
	ь-е	ь-я	ь-ю			ь-ем	ь-е ²	ь-я	и-й	ь-ям	同	ь-ями	ь-ях
I	ж-е ч-е ш-е щ-е ц-е	-а	-у			-ем	-е	-а	—	-ам	じ	-ами	-ах

注：¹ и-й の場合は и-и.

² ь-и の形も用いられる.

³ 少数の活動体名詞の場合は複数において生格に同じ.

<i>I</i>	и-е	-я	-ю	主 に 同 じ	-ем	-и	-я	-й	-ям	主 に 同 じ	-ями	-ях
<i>K</i>	м-я	-ени	-ени		-енем	-ени	-ена	-ен	-енам		-ена- ми	-енах
<i>L</i>	-а	-ы	-е	-у	-ой ¹	-е	-ы	—	-ам	主 ま た は 生 に 同 じ	-ами	-ах
<i>M</i>	г-а к-а х-а	-и	-е	-у	-ой ¹	-е	-и	—	-ам		-ами	-ах
<i>N</i>	ж-а ч-а ш-а щ-а	-и	-е	-у	-ей ² (-ой ¹)	-е	-и	—	-ам		-ами	-ах
<i>O</i>	ц-а	-ы	-е	-у	-ей ² (-ой ¹)	-е	-ы	—	-ам		-ами	-ах
<i>P</i>	-я а-я е-я у-я ь-я	-и -и -и ь-и	-е -е -е ь-е	-ю -ю -ю ь-ю	-ей ² (-ёй) -ей ² (-ёй) ь-ей ² (ь-ёй)	-е -е -е ь-е	-и -и -и ь-и	-ь -й и-й (ё-й)	-ям -ям -ям ь-ям		-ями -ями ь-ями	-ях -ях ь-ях
<i>Q</i>	и-я	-и	-и	-ю	-ей ²	-и	-и	-й	-ям		-ями	-ях
<i>R</i>	-ь	-и	-и	-ь	-ью	-и	-и	-ей	-ям		-ями	-ях
<i>S</i>	ж-ь ч-ь ш-ь щ-ь	-и	-и	-ь	-ью	-и	-и	-ей	-ам		-ами	-ах

注：¹ -ою (ёю) の形も用いられる。

² -ею (-ёю) の形も用いられる。

II. 形容詞語尾変化表

	主	生	与	対	造	前	短	
T	男	-ый (-ой)	-ого	-ому	主または生	-ым	-ом	—
	女	-ая	-ой	-ой	-ую	-ой ¹	-ой	-а
	中	-ое	-ого	-ому	-ое	-ым	-ом	-о
	複	-ые	-ых	-ым	主または生	-ыми	-ых	-ы
U	男	-ий	-его	-ему	主または生	-им	-ем	-ь
	女	-яя	-ей	-ей	-юю	-ей ²	-ей	-я
	中	-ее	-его	-ему	-ее	-им	-ем	-е
	複	-ие	-их	-им	主または生	-ими	-их	-и
V	男	к, г, х -ий (-ой)	-ого	-ому	主または生	-им	-ом	—
	女	-ая	-ой	-ой	-ую	-ой ¹	-ой	-а
	中	-ое	-ого	-ому	-ое	-им	-ом	-о
	複	-ие	-их	-им	主または生	-ими	-их	-и
W	男	ж,ч,ш,щ -ий (-ой)	-его(-ого)	-ему(-ому)	主または生	-им	-ем (-ом)	—
	女	-ая	-ей (-ой)	-ей(-ой)	-ую	-ей ² (-ой ¹)	-ей (-ой)	-а
	中	-ее (-ое)	-его(-ого)	-ему(-ому)	-ее (-ое)	-им	-ем (-ом)	-е (-о)
	複	-ие	-их	-им	主または生	-ими	-их	-и
X	男	ц -ый	-его	-ему	主または生	-ым	-ем	—
	女	-ая	-ей	-ей	-ую	-ей ²	-ей	-а
	中	-ее	-его	-ему	-ее	-ым	-ем	-е
	複	-ые	-ых	-ым	主または生	-ыми	-ых	-ы
Y	男	-ий	-ьего	-ьему	主または生	-ьим	-ьем	
	女	-ья	-ьей	-ьей	-ью	-ьей ³	-ьей	
	中	-ье	-ьего	-ьему	-ье	-ьим	-ьем	
	複	-ьи	-ьих	-ьим	主または生	-ьими	-ьих	
Z	男	—	-а	-у	主または生	-ым	-ом	
	女	-а	-ой	-ой	-у	-ой ¹	-ой	
	中	-о	-а	-у	-о	-ым	-ом	
	複	-ы	-ых	-ым	主または生	-ыми	-ых	

注：¹ -ою (-ою) の形も用いられる。² -ею の形も用いられる。³ -ьею の形も用いられる。

III. 正則動詞語尾変化表

	語例 (*完了体)	現在語幹	直説法現在 (完了体未来)	命令 法	能形現	過去語幹	直説法 過去	被形過
第 I 式	1	дѣлать	дѣла-			дѣла-		-нный
		терять	теря-		-ющий	теря-	-л, -ла, -ло, -ли	(-нный)
		греть	гре-	-й		гре-		(-тый)
		обуть*	обу-		—	обу-		-тый
	2	сѣять	сѣ-		-ющий	сѣя-	-л, -ла, -ло, -ли	-нный
		лѣять	лѣ-	-й		лѣя-		—
		образо- вать	образу-		-ющий	образова-	-л, -ла, -ло, -ли	(-ова) -нный
		горевать	горю-	-й		горевá-		—
	3	писать	пиш-	-й	(пй) -ущий	писа-		(-йса) -нный
		плакать	плач-	-ь	-ущий	плака-	-л, -ла, -ло, -ли	(-нный)
		сыпать	сыпл-	-ь	-ующий	сыпа-		-нный
	4	тянуть	тян-	-й	(тян) -ущий	тяну-		(-тяну) -тый
		заснуть*	засн-	-й	—	засну-	-л, -ла, -ло, -ли	—
		зѣбнуть	зѣбн-	-и	-ущий	зѣб-	зѣб, -ла, -ло, -ли	—
第 II 式	1	говорить	говор-		-ящий	говорí-	-л, -ла, -ло, -ли	(рѣ)-нный
		гореть	гор-	-й		горѣ-		—
	2	учить	уч-	-й	-ащий	учí-	-л, -ла, -ло, -ли	(изуче) -нный
		слышать	слыш-	-ь	-ащий	слыша-		-нный
式	3	строить	стро-	-й	-ящий	строи-	-л, -ла, -ло, -ли	(-бе)-нный
	4	носить	нос-	-й	-ящий	носи-		(ноше) -нный
		любить	люб-	-й	(люб) -ящий	люби-	-л, -ла, -ло, -ли	(влюблѣ) -нный

- 1) [能形過] (過去語幹) + -вший. (過去語幹が子音に終る動詞では ший).
 - 2) [被形現] (現在語幹) + -емый (第 I 式), -имый (第 II 式). (用いられる範囲は限られている).
 - 3) [副現] (現在語幹) + -я (-а). (-я, -а は限られた範囲で完了体動詞の[副過]として用いられる).
 - 4) [副過] (過去語幹) + -в, -вши. (過去語幹が子音に終る動詞では -ши).
 - 5) -ся 動詞は母音の後では -сь, 子音の後では -ся. [副過] -вши(-ши)сь, [能形現] -щийся.
- 注意 (1) 前表中の力点および欠項 (—) は当該例語に専属するものである.
- (2) 多回体語尾の性質を有する -вать は第 I 式 2 の -овать, -евать の範疇に属しない.
例: здороваться (～рôваюсь), намереваться (～реváюсь).
- (3) 不規則動詞は巻末に索引表示する.

IV. 動詞変化における子音交替表

第 I 式			第 II 式		
	語 例 (*完了体)	現在変化 (完了体未来)	語 例 (*完了体)	現在変化 (完了体未来)	被 形 過
з—ж	ска́зать*	скаж́у, ска́жешь...	сн́изить*	сн́ижу, сн́изишь...	сн́иженный
с—ш	пи́сать	пиш́у, пи́шешь...	прос́ить	прош́у, прóсишь...	прóшенный
т—ч	пр́ятать	пр́ячу, пр́ячешь...	плат́ить	плач́у, пла́тишь...	пла́ченный
т—щ	клевет́ать	клевет́у, клевет́ешь...	посет́ить	посет́у, посет́ишь...	посет́ённый
д—ж	глода́ть	глож́у, гло́жешь...	сadíть	саж́у, са́дишь...	са́женный
д—жд	страда́ть	стра́жду, стра́жешь... (古)	суд́ить	суж́у, су́дишь...	сужд́ённый
зд—жд			нагромо- зди́ть*	нагромозж́у, нагромо- зди́шь...	нагроможд́ён- ный
г—ж	дв́игать	дв́ижу, дв́ижешь...			
к—ч	пла́кать	пла́чу, пла́чешь...			
ск—щ	иска́ть	ищ́у, и́щешь...			
х—ш	пах́ать	паш́у, па́шешь...			
б—бл	колеба́ть	коле́блю, коле́блешь...	лю́бить	люблю́, люби́шь...	(в-)любле́нный
п—пл	сы́пать	сы́плю, сы́плешь...	топи́ть	топлю́, топи́шь...	то́пленный
в—вл			гото́вить	гото́влю, гото́вишь...	(при-)гото́- вленный
ф—фл			граф́ить	графлю́, граф́ишь...	графле́нный
м--мл	дрема́ть	дремлю́, дрёмлешь...	корм́ить	кормлю́, кóрмишь...	кормле́нный

発 音

(〔 〕 内は音標文字)

I. 字母の発音 ロシア語の字母は一字一音（時にその結合）を示すアルファベットであり, ъ, ьの両補助文字を除き, また前後音の関係などで脱落する特殊の場合を除き, 発音しない字母はない. 特殊の場合とは, 例えば честный 中の т の如きものである.

注意: ш [ʃ], ж [ʒ] は舌端が硬口蓋に向って上っている点で日本語の シ, ジ とは異った音感を与える. х [x] は弱い後舌摩擦音である. р [r] は強い舌端顫音である. 硬音の л [l] は舌端を上歯裏面に押付けつつ前舌面を下げ後舌面を高める. 西欧語の [l] に当るものは [l'] である. ш はモスクワの標準語では [ʃ'] の長音であるが [ʃ'tʃ'] もまた聞かれないではない.

II. 音の硬軟 ロシア語の音は母音子音を通じ硬音（または硬発音）と軟音（または軟発音）とに区別され, ある程度の対立をなしている. 略言すれば軟発音（または口蓋化音）とは当該音の発音に際し舌面が上顎すなわち硬口蓋に向って高まるもの, 硬発音とはそうでないものをいう.

1) 母音 この見方から母音は次の対立をしている.

軟 я [ja] ё [jo] е [je] и [i] ю [ju]
硬 а [a] о [ɔ] э [ɛ] ы [i] у [u]

注意: 上記のうち и はそれ自身軟音であり, ы は и の発音に際し舌面の高まらぬものである.

2) 子音 子音については, 当該音が形成されると同時に舌面が硬口蓋へ向って高まるものを軟子音と呼び, そうでないものを硬子音と呼ぶ. 軟発音を ['] で示せばロシア語の子音には次の対立がある.

硬 б [b], в [v], д [d], з [z], л [l], м [m], н [n], п [p], р [r], с [s], т [t], ф [f]
軟 б' [b'], в' [v'], д' [d'], з' [z'], л' [l'], м' [m'], н' [n'], п' [p'], р' [r'], с' [s'], т' [t'], ф' [f']

軟子音は文字の上では軟音記号 ь によって示されるが, その以外に子音が軟化（口蓋化）する場合がある.

(i) 軟母音は前行子音を軟化する: тихо [t'ixə], небо [n'ebə].

(ii) 軟子音は多くの場合前行子音を軟化する: зверь [z'v'er'].
また г, к, х の軟音はその軟化の程度が弱い.

注意: ж [ʒ], ш [ʃ] は特殊の場合のほか常に硬発音であり, ч [tʃ'], ш [ʃ'tʃ'] は軟発音である.

III. 力点 ロシア語の各語はほとんどすべて一つの主要力点ある音節を有する, すなわちその音節の母音は他の母音に比し強く発音されるのである. 主要力点なき音節の母音は弱く発音され, かつ音の性質も異なる.

1) 力点ある音節の母音

а [a], я [ja], у [u], ю [ju], о [ɔ, o], ё [jo, jo], ы [i], и [i], э [ɛ, e], е [je, je]

о, е は硬子音の前または語末では開いた音 [ɔ, ɛ] に, 軟子音の前では閉じた音 [o, e] になる. 硬子音の前または語末で力点ある場合は е は多く ё となる. у [u], ю [ju] の発音に際しての円口は顕著である.

2) 力点なき音節の母音

	力点の直前	そ の 他
а	[Λ], ч, ш の後では [ɛ][e]	[ə], ただし語頭では [Λ]
я	硬音前 [je], 軟音前 [je]	語末 [jə], その他 [ji]
о	[Λ]	[ə], ただし語頭では [Λ]
е	硬音前 [je][je], 軟音前 [ji]	[ji][jə], ж, ш, ц の後 [ə]
ы	[i]	[ə]
и	[i]	[i], [ə]

у, ю には力点の有無による音の変化は殆どない.

IV. 子音の有声と無声 子音は声帯の振動を伴うか否かにより有声, 無声に分ち得る.

- | | | |
|---|----|------------------------------------|
| { | 無声 | п[p], ф[f], т[t], с[s], к[k], ш[ʃ] |
| | 有声 | б[b], в[v], д[d], з[z], г[g], ж[ʒ] |
| { | 無声 | х[x], ц[ts], ч[tʃ'], щ[ʃ'tʃ'] |
| | 有声 | ([ɣ], [dz], [dʒ], [ʒ]) |
- 有声のみのもの л[l], р[r], м[m], н[n]

V. 位置による子音発音の転移

- 1) 語末の有声子音は無声となる(ただし р, л, м, н を除く): боб [bɒp], ряд[r'at].
- 2) 無声子音の前の有声子音は無声となり, 有声子音の前の無声子音は有声となる. 前置詞の如く, 後に隣接する語と接合して一続きに発音される場合も同様である, ただし р, л, м, н は無声となることがなく, また無声子音に影響しない. また в の前の無声子音に限り有声とならない:
овца́ [ɒftsá], ров [rɒf], сбить [z'b'it'], к брату [gbrátu], ночь была́ [nodʒ'bilá],
мышь дала́ [miz dɒlá], из чего́ [is'tʃ'ivó], свод [svɔt], горка [górka].
- 3) 軟音の前の子音は軟子音となることが多い(前出): две [d'v'ɛ], здесь [z'd'es'].
- 4) с, з は ж の前で [ʒ] となり, ш と ч の前で [ʃ] となる: сжать [ʒʒat'], сшит [ʃʃit].
- 5) к は к, т の前で [x], г の前で摩擦音 [ɣ] となる: к кому́ [xkɒmú], к горе́ [ɣgɒr'ɛ].
また г は т, ч, к の前で [x] となり, д の前で [ɣ] となる: дёгтя́ [d'óxt'ə], тогда́ [tɒɣdá].
- 6) здн, стн の結合における д, т は発音されない: известно́ [iz'v'ésnə].
- 7) 動詞末尾 -ться, -тся はともに [-tsə] と発音され, -ть-, -т- 以外の子音の後の -ся は通常 [s'ə] (ただし硬子音の後では [sə] ともなる, また -с-, -з- の後ではつねに [sə]), -сь は [s'] になる:
б́иться [b'itsə], б́ётся [b'jótʃsə], б́ьёшься [b'jós'sə], б́ился [b'íls'ə], сп́асся [spássə],
бо́юсь [bɒjús'].